

課題（実施項目）における関係者実施の現状と課題

分担研究者	中野孝介	国立成育医療研究センター	臨床研究センター
分担研究者	竹原健二	国立成育医療研究センター	政策科学研究部
分担研究者	山縣然太郎	国立成育医療研究センター	こどもシンクタンク
分担研究者	板倉敦夫	順天堂大学大学院	医学研究科
分担研究者	植田彰彦	京都大学	医学系研究科先端基盤看護科学講座
分担研究者	小林 徹	国立成育医療研究センター	データサイエンス部門
分担研究者	佐藤雄一郎	東京学芸大学	教育学部
分担研究者	中井章人	公益社団法人日本産婦人科医会	
分担研究者	中川 慧	大阪大学産科学婦人科学教室	
分担研究者	永光信一郎	福岡大学	医学部 小児科
分担研究者	三上礼子	国立成育医療研究センター	臨床研究センター
分担研究者	三平 元	千葉大学	附属法医学教育研究センター
分担研究者	森川和彦	東京都立小児総合医療センター	臨床研究支援センター
分担研究者	森崎菜穂	国立成育医療研究センター	社会医学研究部
分担研究者	山本圭一郎	国立国際医療研究センター	臨床研究総括部
研究代表者	梅澤明弘	国立成育医療研究センター	こどもシンクタンク

研究要旨

本研究班は母子保健デジタル化推進のために課題を整理し、その解決策を提言するものである。他方で、母子保健デジタル化実証事業における自治体の状況は本研究とは密接な関係にある。本分担研究は母子保健デジタル化に向けた研究班と実証事業における進捗と課題を改めて整理し、最終年度の研究を検討することを目的とした。

ステークホルダー別、項目別での進捗と課題をこれまでの検討会の記録などを資料にマトリックスを作って、見える化をした。

入手できる情報の限界から、十分な整理は困難であったが、実証事業自治体の状況、任部健診・乳幼児健診情報の標準化、倫理的課題、実施にあたってのマニュアル等についての状況を把握することができた。

A. 研究目的

母子保健デジタル化に向けた研究班と実証事業における進捗と課題を改めて整理し、最終年度の研究を検討することを目的とした。

B. 研究方法

ステークホルダーごとにいくつかの項目での進捗と課題をこれまでの検討会の記録などを資料にマトリックスを作って、見える化をした。

着目した項目は、①母子保健 DX アプリユーザビリティ、②健診業務運用、③PMH/情報流通データ利用、④健診記録管理、⑤健診事業モデルであり、ステークホルダーは管理者（こども家庭庁、デジタル庁）、事務つ社（研究班、コンサルティング）、自治体（住民、健診実施保健師等、健診実施医師・歯科医）

C. 研究結果

結果の表にまとめた。

D. 考察

入手できる情報の限界から、十分な整理は困難であったが、実証事業自治体の状況、任部健診・乳幼児健診情報の標準化、倫理的課題、実施にあたってのマニュアル等についての状況を把握することができた。

E. 結論

母子保健デジタル化に向けた研究班と実証事業における進捗と課題を改めて整理し、最終年度の研究を検討した。

F. 健康危機情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

（発表誌名巻号・頁・発行年等も記入）

H. 知的財産権の出願・登録状況

（予定を含む。）

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし